

## 「フィリポの宣教」

2016年04月12日

**使徒言行録 8章9節～13節。**ところで、この町に以前からシモンという人がいて、魔術を使ってサマリアの人々を驚かせ、偉大な人物と自称していた。それで、小さな者から大きな者に至るまで皆、「この人こそ偉大なものといわれる神の力だ」と言って注目していた。人々が彼に注目したのは、長い間その魔術に心を奪われていたからである。しかし、フィリポが神の国とイエス・キリストの名について福音を告げ知らせるのを人々は信じ、男も女も洗礼を受けた。シモン自身も信じて洗礼を受け、いつもフィリポにつき従い、すばらしいしるしと奇跡が行われるのを見て驚いていた。

エルサレム教会でギリシア語を話すユダヤ人のやもめたちが日々の食事で軽んじられる風潮が起こった。異国から帰国した寄る辺ない彼女たちが差別されたのである。教会は即座に「霊と知恵に満ちた評判の良い人」の中から、公平に分配する務めをするために7人を選んだ。問題が起こった時、すぐに対応できる教会は聖霊が働いている証拠である。選ばれたうちの一人がフィリポである。彼は公平に行き渡る食事係となったのであるが、使徒言行録8章にはサマリアとガザで素晴らしい伝道をしたと伝えている。迫害を逃れて行ったサマリアで、御言葉を語り、悪霊を追放し、病人をいやすしるしを行った。

(北)イスラエルの首都であったサマリアに住む人々は(南)ユダヤ人と同族であった。紀元前720年にアッシリアに滅ぼされてから、サマリア人はアッシリアの宗教を受け入れ、アッシリア人と結婚した。ユダヤ人はヤーウェに対する信仰を捨てた民族として蔑んだ。サマリア人とは口も利かず、汚れたサマリアの地に入ることもしないなどの差別をした。

主イエスはしばしばサマリア人について語っている。ルカ福音書10章の「善いサマリア人」の譬えで、強盗に襲われた人に対し、祭司、レビ人は素知らぬ振りをして通り過ぎたが、日頃差別されていたサマリア人は襲われた人に同情し親切の限りを尽くしたと語っている。ルカ福音書17章では、主イエスは10人の重い皮膚病者を癒したが、感謝するために戻って来たのは不信仰と言われたサマリア人だけであったと伝えている。また、ヨハネ福音書3章には、サマリアのシカルの井戸での、主イエスと一人の女性の対話を記している。彼女は自分の過去を言い当てられ、預言者と思い、真の礼拝場はユダヤのエルサレムか、サマリアのゲルジム山かと問うた。真の礼拝を捧げることによって救いに与りたいと願っていたからである。彼女は主イエスの答えを聞いて、預言者であると確信し、サマリアの人々を呼び集めた。町の人々は主イエスを信じるようになっていった。主イエスは、差別されたサマリア人は砕かれた豊かな信仰を持っていることを見抜いておられた。

このサマリアの町に、シモンという名の魔術師がいた。彼は魔術を行って人々を驚かせ、偉大な人物と自称していた。小さな者から大きな者まで「この人こそ偉大なものといわれる神の力だ」と評し、注目していた。彼の魔術に心を奪われていたからである。

フィリポはサマリアに入り、神の国と主イエスの福音を告げ知らせた。言葉としるしにおいて力強い宣教をし、人々の関心と敬意を集めた。フィリポが語る主イエスの福音を信じた人々は洗礼を受けた。魔術師シモン自身も信じ、洗礼を受けた。そして彼は、いつもフィリポにつき従った。フィリポの素晴らしいしるしと奇跡を見て、驚かされたからである。自分を偉大な人物と称していた魔術師もフィリポの働きに感嘆したのである。福音は拒絶されていると思われる所で大きな前進を見る。